

議会報告会・意見交換会記録

1 日 時 令和3年11月14日(日) 午後1時30分 開会

2 場 所 妙高高原メッセ2階多目的ホール

3 出席議員 14名

議 長	佐藤 栄一
広報広聴委員長	宮澤 一照
広報広聴副委員長	宮崎 淳一
広報広聴委員	天野 京子
〃	太田 紀己代
〃	横尾 祐子
総務委員長	岩崎 芳昭

総務委員	高田 保則
厚生文教委員長	村越 洋一
厚生文教委員	霜鳥 榮之
産業経済委員長	阿部 幸夫
産業経済委員	小嶋 正彰
〃	堀川 義徳
〃	丸山 政男

4 市民出席者 12名

5 事務局員 2名

局 長	築田 和志
-----	-------

主 査	道下 啓子
-----	-------

6 件 名

議会報告会・意見交換会

- 1) 開会
- 2) あいさつ 議会報告
- 3) 意見交換
- 4) 閉会あいさつ
- 5) 閉会

1) 開 会

○司会(天野京子) こんにちは。本日は大変お忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。さて、妙高市議会では、平成27年3月に制定されました議会基本条例に基づきまして、開かれた議会を推進する取り組みの一つとして、議会報告会・意見交換会を開催しております。今年は妙高高原地域での開催としております。本日は、妙高市議会議員9名で進めさせていただきます。最初に、議員9名の自己紹介をさせていただきます。まずは議長からお願いいたします。

○議長(佐藤栄一) 皆さんこんにちは。この8月から議長を仰せつかっております佐藤でございます。よろしくお願いいたします。

○広報広聴委員長(宮澤一照) 皆さんこんにちは。私今この広聴委員会って言いまして、こういう意見交換会とかあと議会報だとか、そういうことの委員長させていただいております。また副議長を8月からさせていただいております。宮澤一照と申します。よろしくお願いいたします。

○総務委員長(岩崎芳昭) 皆さんごめんください。総務委員長の岩崎と申します。よろしくお願いいたします。

○厚生文教委員長(村越洋一) 皆さんこんにちは。厚生文教委員会の委員長をやらせていただいております。村越洋一と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

- 産業経済委員長（阿部幸夫） 皆さんこんにちは。産業経済委員長の阿部幸夫と申します。よろしくお願いいたします。
- 広報広聴委員（横尾祐子） 皆さんこんにちは。広報広聴委員の横尾祐子と申します。よろしくお願いいたします。
- 広報広聴委員（太田紀己代） 私も広報広聴委員をさせていただいております。太田紀己代と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 広報広聴副委員長（宮崎淳一） 皆さんこんにちは。ありがとうございます。広報広聴委員副委員長の宮崎淳一と申します。よろしくお願いいたします。
- 司会（天野京子） 最後になりました。広報広聴委員の天野と申します。今回司会をさせていただきますよろしくお願いいたします。それでは引き続き、進めさせていただきます。この議会報告会意見交換会につきましては、後日、会議録の作成の予定をしております。参加者の皆さんの個人名は公開されませんが、質疑や意見交換における皆さんや議員の発言につきましては、会議録としてホームページにて公開させていただきますので、あらかじめご承知おきくださいませ。また、質疑や意見交換で発言される場合には、最初にお住まいの地区とお名前をおっしゃってからお発言いただきますようお願いを申し上げます。なお、今回の取り組みは、今後の参考にさせていただきたく、この会が終わりましたら、アンケートにご協力をお願いいたします。

2) あいさつ 議会報告

- 司会（天野京子） それではただいまから議会報告会、意見交換会を開会いたします。お手元に配付させていただきましたレジメに沿って進めさせていただきます。初めに佐藤議長より挨拶、議会報告をいたします。
- 議長（佐藤栄一） それでは、一言ごあいさつを申し上げます。本日は大変お忙しい中、議会報告会意見交換会にご出席いただきまして本当にありがとうございます。また、日頃より本市議会の活動に対し、ご理解とご協力をいただきまして、心から感謝を申し上げます。私からは、本日開催の議会報告会意見交換会の趣旨と目的をご説明させていただきます。まずは、市民の皆さんに議会の取り組みを知っていただくとともに、市民の皆さんと情報共有、意見交換の機会を設けています。いただいた意見を市長執行機関に伝えるだけでなく、議会の中でしっかり議論をして、市民の皆様方の負託にこたえる安心安全な魅力づくりに取り組んで参ります。まちづくりの政策決定過程の市民参加が、これからは重要になってくると思っております。最良の妙高市に導くため、皆様のご意見を議会として、政策提言に役立てていく所存であります。ぜひ、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。
- それでは5月定例会で審議しました、令和2年度、一般会計決算について簡単に説明させていただきます。手元に資料はないですが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けまして、感染拡大の防止と社会経済活動の両立に向けて、緊急に予算措置が必要な経費をはじめ、豪雪による災害対策にかかる経費などで、昨年度は合計16回。総額60億1660万円、補正予算を編成され、事業が進められました。その結果、令和2年度一般会計決算額は、収入総額253億820万円に対し、支出総額は222億3188万4000円となり、形式収支は30億7631万6000円。翌年度繰り越すべき財源を差し引いた実質収支は30億86万2000円の黒字となりました。次に、議会だよりをご覧ください。今回の議会だよりから新しい広報広聴メンバーでアイデアを出し合い作り上げました。2ページ目には、私と宮澤副議長の挨拶となっております。でかい写真で申し訳ございませんが、1ページを使わせてもらいました。3ページ4ページは決算総括質疑を掲載しております。5、6ページでは3常任委員会で議案審査を掲載しております。なお、この8月の議員の任期折り返し点において、議会改革の一環として、3常任委員会の所管で簡単に言うと、総務課とか企画政策課とか市民税務課などの担当ですが、いくつか変更して、新しい組み合わせにすることにより、中身の濃い審査を目指すようにしました。7ページ目からは各議員の一般質問が掲載されています。各議員の写真とタイトルの下にQRコードがつけてありますが、そこから入っていただくと、YouTubeに繋がり、各議員

の質問が見られますので、後程ゆっくりご覧ください。最後に、裏表紙ですが、新しい広報広聴委員会のメンバーの元気な姿が載っているところです。妙高市議会の女性4人。歌で言えばクインテットの4人ですが、素晴らしい格好して、これからの活躍が期待される場所でもあります。最後となりましたが、この議会報告会意見交換会は、新型コロナウイルスの影響でしばらく開催することができませんでしたが、今回を新たなスタートにして、市内各種で開催して参ります。皆様がたの前向きなご意見、アイデア等たくさんいただき、これからの妙高市の発展につなげて参りますので、よろしく願いいたします。簡単ですが、挨拶とさせていただきます。よろしく願いします。

3) 意見交換

○司会（天野京子） それでは意見交換会に入らせていただきます。忌憚のないご意見をと言ってもなかなか話しにくいかもしれませんが、この場では、皆さんの率直な妙高高原の課題など拾っていきたくて思っております。例えば、観光行政、環境問題、教育や人口減少について、関係人口や地域医療福祉など、どんなご意見でも構いません。それでは、マイクをとおしてお住まいの地区とお名前を述べていただき、ご発言をお願いしたいと思います。ありがとうございます。今マイクをお渡しいたします。

○市民A 妙高高原地域、〇〇の〇〇です。前回、私3つほど質問いたしました。その中で、返事ってどうか、答弁に関してのことなんです。全部で質問は3つ、ないし4つあります。最初に伺いたいんですか、胎内市のことについて議会定数ですか。私は16ということで、新聞を読んで質問したところ、今の議長が18だと言いました。前回ここでやった時は、平成31年4月中でしたよ。間違っていますか。間違っていますか。前回31年の4月だと思います。それで胎内市に関してですが、新聞社にも問い合わせました。あなたがたの書いている記事は嘘か。嘘ではありません。それ胎内市の議会事務局電話かけたら、16です。それは平成30年の9月に選挙をやったときに、16になりました。ですからその時、議長が見ていた手帳には多分県民手帳か妙高市議会手帳とかいうものでしょう。いかに間違っていることに気がつかなかったのか。ということですね。それが一つ。二つ目は、国体やったときに、議会の、決算書には、空欄で9600万か700万のことについて、どこですかって聞いたたら、県からと言いました。その時に私思ったんですが、思ったんですがというよりも、何回か妙高市というよりも妙高高原町の時代からやっていった時に携わった人間に聞いたら、新潟県が窓口となって集まったお金。補助金並びに、協賛メーカーから集まったお金が9600万700万。だからお答えはまるで県が全額出したような返答でした。三つ目。その時に、国体やったことに対して、妙高市の経済効果は5億だという答えも出てきました。その時に私それから調べました。市に入る直接入る税金。目に見えてわかる税金というのは私なりに調べたら、地方たばこ税と入湯税なんですね。その時に調べたら、それを前後調べても増えていないんですよ。5億の100分の1で500万入湯税増えているかと言ったら減っているんですよ。3年から4年ぐらいの間で。それで四つ目なんです。前回やった妙高市の国体で開会式にしないで開始式にしたということは私は評価したいと思います。なぜならば、開会式にして、平成の時代に秋篠宮が来るのと、皇太子が来るのでは予算が全然違うんですってね。聞いたたら、なぜだということを聞いたたらこうでこうでこうなんだということは、私一応勉強しました。ですからこの中で、議員さんの中で、その違い、なぜそれだけ違うのかということわかる人いますか。なぜこんなに違うんだ。だからそのことについては、今度やるときまでの私は宿題だと思います。お互いに勉強しようじゃありません。ただ単に国体やりましょう、ああそうですかじゃなくて、市としても税金使っているんだからもっとお互いに勉強しませんかということ私を言いたいと思います。ある新聞によると、年間450万の差異が出てくるんですから。勉強しませんかと私思います。ですから、最初の三つのことについて、ちょっとお答えいただきたいと思います。今の佐藤議長が三つのうち二つ答えたんで

すから、お答えをお願いします。

○司会（天野京子） 佐藤議長、お願いします。

○議長（佐藤栄一） 胎内市ではなく、市のことを考えていました。すいません私、別のことを考えてました。胎内市の議員定数が16人だというのは今の手帳には16になっています。当時私18と答えたってちょっと記憶にないんですが、間違っていれば訂正を申し上げたいと思います。申し訳ございませんでした。2点目の件ですね、私が答えるのは、国体のこの9600万のお金については、決算書がここにはないので、内訳がよく私も今見えてないんですが、多分県からと答えたのは、すべてのいろんな協賛金等がまとめて、県の方で集計をして、こちらの方に来ているためではないかなというふうに推測しているところですが、手元には資料ないので、正確な答えできなくて申し訳ないんですが、その辺でよろしくお願いをしたいと思います。あと3点目と4点目はどうでしょうか。関係の委員長さんよろしいですか。

○市民A ですから9700、600万のことについては、ただ一言、県からだと言っただけははっきり断言したんですよ。だから私、議会でその決算書を見ておかしいなとは思ったから、こういう時に質問したわけですね、いわゆる議会で質問しなかったから私はこういう時に質問しただけの話です。だからそこを説明の仕方が悪いとかそういう問題ではなくて、だから、細かいことについてわからないんだから、今みたいにわからないから次回の時には答えられるようにしますという返事が私は欲しかったと思いますよ。だから多分開会式には行ったと思いますよ。行くときだいたい協賛メーカーののぼりとか何かあるわけですよ。そういうことを理解してもらわないといけなないなと思いました。だから、新潟県で自分で思うけれど、国体があると妙高市多分3回に1回は絶対やってるはずなんですよ。あと他に湯沢とかやるけど、一番やりやすいのはやっぱりあそこにあるジャンプ台、県営のジャンプ台があるから来るわけですよ。逆に言ったら作ったんだからお前らやれよの時代になってくるかもしれないんです。だから、そういうときにジャンプ台。誰に言っても雪上車がそこまで上がっていくような雪上車は1台幾らするかということは、広報広聴委員長の宮澤議員にも聞いたことがありますけれど、すごく高価なもんですよ。だからすごく経費に関しては、お金がかかることは確かだし、そこを皆さんで勉強してもらわないと、安易に国体やります。ああそうですかと。税金使われてるんですよ。言われても、安易な考えでやられると困るなという感じがあります。以上です。

○司会（天野京子） ありがとうございます。じゃあ次に移らせていただきます。どなたかいかがでしょうか。今日は女将の会の方々からも来ていただいておりますのでぜひとも、忌憚のないご意見よろしくお願いをいたします。よろしくお願いをいたします。

○市民B ○○の○○と申します。よろしくお願いをいたします。今回こういう機会をいただき、ありがとうございます。私たちずっと市長さんとかお願いをしている中で、ずっと実現しないことがございまして、妙高高原駅の駅舎の問題というのが、私たち観光でお客様をお招きする側として非常に高いハードルになっています。高齢者の方が全部向こう側に行かなくてはいけない。階段を上って降りて、高い階段をお荷物持って来られるわけですね。高齢者の方の中から、非常にもうおられないっていうお声が実際に私たち旅館であるんですね。実際妙高高原の駅行っていただきたい。本当に。インバウンドの方々成田、羽田からいらっしゃった際に、彼らは30キロの荷物を持ってる。1週間10日滞在してくださるために、他の白馬とか野沢とか、非常に優しい、いらっしゃる方々に優しい作りになってます。妙高高原駅はというと、インバウンドがいらしていただいて、きだしてから、もう10年近く経ちますが、一切何の手も加えられてなく、どんどん状況がひどくなるばかりで、この辺りは、皆さんもよく旧妙高高原は観光で生きてきました。それで新井と合併して妙高市になって、観光というものに、どういうふうにお考えになってらっしゃるのか。妙高は、妙高山があって、いらしていただきたい。観光大事だ。来てもらって、妙高のよさを知って欲しい。たくさん住んで欲しい。そのためには、まず、駅に降り立ったときに、あの駅をご覧になっ

て、お客様、または住んでいる高齢の方々、どのように感じていらっしゃるか、皆様はそのあたりどのようにお考えでいらっしゃるか伺いたいです。私たちは、本当にお客様の声を届けるべく、何度も何度も何度も何度もお願いにいろんなところに行っておりますが、まったく進展はありません。で、いまだにまだ来てくれ、来い来い、良い所だって全く矛盾してますよね、私たち旅館ですから、女将は直接お客様からお声をいただくわけです。それを届けているんです。皆さんに。こうおっしゃっている。こんなに困っている。それに対して一切ないですね。これは、皆様自身は妙高高原の駅をお使いになっていらっしゃるかたがいらっしゃるかどうか分からないんですけど。一回ぜひ 30kg お荷物とお子様と小さいお子様の手を引いて、スノーボードを持って、あそこ降り立っていただきたい。ちょっと1回やっただけませんか、駅のツアーを宮澤さんどうでしょうかね。こういう機会にぜひ冬の前に、30キロの石詰めたトランク持って、スノーボード私用意しますわ。小さいお子さんの手を引いて、来てみていただきたい。それでもまだお客様に、来てくれといえる場所なのかというのをちょっと皆さんで議論していただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

○司会（天野京子） まずは宮澤委員長から。

○広報広聴委員長（宮澤一照） お答えさせていただきたいと思いますが、本来ですねこれは産業経済委員長が後から、またお話しさせていただきたいと思いますが、今あえて私の名前が出たんで、これは本当に私も観光やっておりますから一番問題だと思いますし、どれだけ重いまたお年寄りがあそこ歩いて安全快適がどれだけ大変かということは、これはあそこ、トキ鉄とのですね絡みが非常に私あると思うんです。これ個人的な意見をここでは言うてはいけないので、直接こういうことがあって私は、行政に対してしっかりと言いたいと思いますけれども、やっぱりここは議会の報告の場なんで、ちょっと私は言えないけれども、あえて宮澤っていう声が出たんで言いたいけれども全くおっしゃる通りだと思いますし、でも先般トキ鉄の社長さんの講演を3市の合同研修会で聞きました。その時は、やはり雪月花だとか、それからそういうことで営業して、企画を立てて、それでどんどん、いいものを作り上げていくっていう前向きなことを言っていたんですけども、その時にまた私は水を差すようなこと言えなかったんで、あえて言えなかったけれども、しょっちゅう番線、番線もそうですけれども、ちょっと落ち葉が落ちただけでも、電車が止まってしまう。鉄道の重要性っていうのは本当に言えなかった。だけどあの場で私が言えばまたいろんな問題が出るから、私は言わないけれどもまして今副議長になってるからこんなこと言ったら大変な問題になっちゃうと思って言わないですけれども。本当に〇〇さんの言う通りだと私は思いますし、まずお客さんを来てもらえるならそれなりの対策をしっかり出さなきゃだと思ったり、幾らお金がかかったってそれは県も、在来線として私はやる必要があるし、それは行政としてしっかり言うべきだと私は個人的には思います。ですから皆さんがたの意見ってのはここにいる地元議員もそうですし、議員がみんなそれを質問では見ていただければ言っている人はたくさんいらっしゃいます。万全の問題もそうですし、だけれどもそれが長年のトイレの問題です。いろんな問題が出てくるんですけども、トイレができないから、あそこに観光案内所を作ってあそこの二階は展望台になって、こんなこと話して私どんどん話が長くなっています。これ以上は言いませんけれども、私も皆さんの意見とは個人的にも同感だと思いますし、ここにいる議員も皆さんも同じことを考えてるんですけども行政がやってくれない。幾ら言ったって聞いてくれない。そこにやっぱり疑問があると思います。あとは産業経済委員会の委員長がどのような判断をされてどのような意見を取りまとめて、議会としてしっかりとやっていくかっていう、これが重要なところだと思いますので、キーは産業経済委員会の委員長さんよろしくお願いたします。

○司会（天野京子） 産業経済委員長阿部さんお願いします。

○産業経済委員長（阿部幸夫） ご質問どうもありがとうございます。実は少しこれまでの経過をお話しますと、今まで特別委員会にですね、委員会を作って、議論を重ねて参りました。トキ鉄になる前に特別委員会という形で、ト

キ鉄になった時の対応についてどのようにしていくのかということ、私らの大先輩の皆さん方が議論されてきました。その後、トキ鉄に代わりにですね、多くのJRと違うですね、トキ鉄としての対応できない、民間での対応できない部分を、いろいろとそこでも特別委員会を作って、いかに地域に根差した、トキ鉄になるのかということ、議論されてきた中身であります。先ほどご指摘いただいた妙高高原駅については、その特別委員会の中でもですね、地域の皆さんと一緒にいろんな意見交換をさせていただきました。そして行政では企画という部門が中心になって、そのことをやってきたわけですが、とにかくインバウンドの皆さんが長野から、妙高高原に来るとき、妙高高原に来た時に本当に荷物が重たい、そこで待ってる時間等々含めてですね。地域交通の問題等々がありました。しかしながら、さっき副議長が言われるように、私らも強く要望してきたわけですが、トキ鉄としての赤字経営、赤字という中においてですね、そのことについての変更が、なかなかJRとの対応がうまくいかない。そして県も巻き込んでいろいろ対応して参りましたが、現実のようですね、何も今動いてないということがあります。私ら議会としてもですね。何とか費用のかからないような形で、一番それをですね、議論して、橋を渡らずに、そしてすぐ改札口に出てくることはできないのか。そういうことも、市に要望して参りました。そしてトキ鉄の方にも要望して参りましたが、そのことについてもいろいろ試算をしたところ、相当な金額がかかって、なかなか難しい。こういう回答でありました。私らもその後ですね、全体的な部分としてですね、どのように進めるかにつきましては、今のところ先ほどご指摘のような形になってるということと私が今、報告した内容で今、これ以上の進展がないということでもあります。そして今現在、社長も改めて変わりましたし、私らもまたいろんな形で今皆さんも知っての通り、雪月花がいろいろ長野県に入ったり、そして松本の方にも大糸線が入ったり、今度は富山の方にも動くというような新しい動き方ができておりますので、もう一度ですね、新しい社長とともにですね。この点についても話を、意見交換をしてみたいと思います。当然、現行政においてもですね、もう一度、本日のこの内容についても行政とも話し合いをしていきたい。このように考えておりますので、皆さんの言われるような形に、行くかどうかについては、少し腹を据えてですね、議会としての対応を進めていきたい。このようなところで、本日はご理解いただきたい。こんなふうに思いますのでよろしくお願いいたします。以上です。

○司会（天野京子） 1点プラスして、皆さんにご紹介をしたいと思います。この件につきましては、地元の高田議員さんが、一般質問で取り上げておりますので、その時のやりとりをご本人から説明をしていただきます。

○高田議員（高田保則） 皆さんこんにちは。高田でございます。いつもお世話になります。今妙高高原駅の関係でご質問ございますけども、私もう当初からトキ鉄なる前のときの交通対策特別委員会の一員として、いろいろ意見をしてきたわけですけども、今の番線の問題についてはですね。当初から問題になっていました。今までは一番線が下り線、3番線が上り線ということでなっていたものですから。地元の今のお子さんとか年寄りの方は、3番線に行くとき非常にね、高架橋を使うということで非常に大変だったことで、とにかく地元の方が一番利用しやすい発着場で、ホームということで提案してきました。3番線については、今までの上り線ですね。そういうことで致し方ないなという一つのね。でもとにかく、地元の方が一番利用しやすい駅でなくてはいけなくて、一番線を下り線の始発着場として提案してきましたけども、なかなか国土交通省との関係で、うまくいかないということでもございました。その後、私0番線ってということで、かつての貨物引き込み線を市発着場にして、地元の方の便宜を図ったらどうかとか。それで一番線を北信濃線の市発着場にしたらどうかということで、同じホームを両側で使うということで提案をしてきました。なかなか。改装費と言いますか、国の認可も難しいし、路線の変更には相当金がかかる。いまだ解決してないということです。ただインバウンドはとにかく地元の方の市発着場については、一番性が14、5本のうち、5本くらいは1番線から出ているような、下り線は。そういうことで若干改善はしてるんですけども、今〇〇さんおっしゃった、インバウンドの問題については、依然として解決してないということが現

状でございます。以上です。

○司会（天野京子） 引き続き、佐藤議長から発言があります。

○議長（佐藤栄一） この問題は本当にトキ鉄になる前から課題として残っていた問題だと思ってますし、高田議員が質問されているように、なかなかこれをやっても進んでいかない。鉄道という特殊な環境の中での変更というのはこんなに面倒なのかっていうのを今更ながら感じているところです。先般ここでやったときも、確か妙高高原駅、地元で草刈りもしてるんだよというようなお話もいただいたような思いがございます。地元で愛される駅となる上に、我々も頑張っていかなきゃいけないという思いでございますので、今回いただいた意見につきましては、また議会の中でしっかりと、中を揉まさせていただきまして、行政側それからトキ鉄側、そういったところにも働きかけていきたいと思ってますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

○司会（天野京子） 大変ありがとうございました。どうですか。まだ、何かご意見ありましたらお願ひいたします。

○市民C ○○の○○と申します。ちょっと個人的な事情で今ちょっと、旅館を休業しておりました、私自身がちょっと○○方面で住まい構えているもんですから。トキ鉄をしょっちゅう使ひます。本当によく使ひます。私、杖をついて、左足股関節悪いので、それであの階段を毎回上ったり下りたりして、しんどいと思ひておひます。これからもトキ鉄を使うために、冬はインバウンドのお客さんが、大きな荷物を持ってお子さんを連れしたりして、そういう方が上がったり下りたりしているのを何度も見ておひます。それで私もそのことをずっと気にかけておひまして、ある日長野に行ったんですね。そうしましたら長野の3番ホームと4番ホーム、あれ1本を3番と4番で使っている事例があるんです。皆さんご存じでしょうか。長野の3番ホームと4番ホームの真ん中に大きなコンクリートの石みたいなのをどんと置いてこっちが3番、こっちからこっちは4番ホームと分けて使っているんですね。あれが長野駅でできるんならば、妙高の駅でもやりようによってはできるんじゃないかと思ひます。そうすると、一番ホームだけで、しなの鉄道とトキ鉄と分けて、ちょっとホームをもう少し長くするってことで、エレベーターとかそういうのをつけるよりずっとずっと安い予算でできると思ひますね。だからちょっと諦めないで、ちょっと今の皆さんのお話を聞いていると、今までも10年近くそうだったから、これからもその流れでいきそうな感じがしたんです。それでちょっとこれお話ししておいたほうがいいなと思ひて、今手を挙げさせていただいたんですけども、そういうことも事実あるんです。諦めないで皆さんいろんな方面から、ちょっとつづいて、こういう方法はどうか、あういう方法どうですかって、どんどん言っただいて、議員さんの力として一丸となって行っ行ってほしいと思ひます。それから、今回政府内閣変わりましたよね。それで、その時の話でも、インバウンドをコロナが終わったらまた強く勧めるということも掲げておひましたので、そうしますと、コロナが終わってからもまたインバウンドのお客さんたくさん来てくれると思ひます。そのときまでに今がちょうどね、休みどきで、そういうのを検討して、新しく改革いい時期だと思ひますよ。ここ2、3年の間に。だから本当に今いい機会だと思ひますのでぜひぜひ皆さん一丸となって検討して、もっと具体的に何とかなる方法を考へて欲しいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○司会（天野京子） 産業経済委員長。最後、阿部さん。決意を述べていただけますでしょうか。

○産業経済委員長（阿部幸夫） ありがとうございます。今ほどお聞きした中で、長野駅のですね、対応の話もありました。私どもそういった観点からですね、新たな方法がないか等々含めてですね。この議論をしっかりと詰めていきたいとこのように思ひておひますので、逐次この内容につきましては、皆さんのところに届くようにですね、取り組みを産業経済委員会としては進めていきたいと思ひますので、決意として、ご報告させていただきます。どうか今後もよろしくお願ひします。

○司会（天野京子） この問題、他に意見ございましたら、言い足りなければどうぞ。よろしいですか。はい。どうぞ。

○市民B 先ほども何か。雪月花とか、いろいろおっしゃってらっしゃいましたけど、その雪月花で来られるお客様の我々の利益と、インバウンドの利益と一体どのくらい違うもんですかね。雪月花に乗ってくださる方いらしてくるのはありがたいですけど、でも我々旅館にとって全くないですよ。対策委員会を作るとか、何か本当に本当にこれは私たちの切実な願いなんです。もうインバウンドだけではないんですね、これ、インバウンドインバウンドと言われているけど、そうじゃなくて、お年を召されたお客様がああ階段を上ってこられないわけなんです。うちの父と母とかもう下るときは関山まで行くんですね、階段を下りただけだから。あとケガなされた方、東京まで帰るのに、私たち黒姫まで送っていくんですよ。こんなところ観光地ではないですよ。恥ずかしい。本当に本当に切実に私たちそこを思っているんで、ぜひぜひとも何らかの形で、向こう様とお話し合う機会なりなんなり本当によろしく願います。阿部さん。以上です。

○司会（天野京子） 今のご発言も切実な内容でございました。これだけ女将の会から長きに渡り、思いをお聞きしておりますので、阿部委員長もう一度お願いいたします。

○産業経済委員長（阿部幸夫） 皆さんのご意見しっかりと受けとめて、そのことについて積み重ねて、皆さんの地域の要望に応じていくような形でですね、委員会として進めていきたいというふうに思いますし、本日また議員の皆さん、多くの皆さんから参加しておられますので、これも皆さんといろんな角度で意見交換をするなかで、一步でも二歩でも、前に進めていきたいとこのように思いますので、お願いいたします。以上です。

○司会（天野京子） ただいまお話の中から、この問題については特別委員会をしっかりと設置して欲しいというご要望ありましたので、佐藤議長、その点についていかがでしょうか。

○議長（佐藤栄一） 前にありました交通対策特別委員会というのは、もう少し広い範囲のものを取り扱ってました。新幹線が来た場合の在来線の対応ということで、広い範囲の話でしたが、特別委員会の設置に似合うかどうかはまた議会運営委員会の中で揉まさせていただきたいと思います。その中で議員の皆さん方の総意があれば、そういう形も取れていくと思いますが、今のところはまだ特別委員会できないのであれば、産業経済委員会あたりでしっかりと議論できる場所でもありますので、時間をおくことなく進めていきたいというふうに思ってます。

○司会（天野京子） 時間も後半になりましたので、次の話題ございましたら、この場で言いたいことがおありで、お越しになった方もおられると思いますので、はい、どうぞ。

○市民A さっき質問したその胎内市のことの関連じゃないですが、議員定数の何か委員会が立ち上がったというお話しが入ったんですが、今度の選挙までには間に合うんですか。

○司会（天野京子） 委員長から発言を求めたいと思います。堀川委員長。

○妙高市議会議員の定数及び報酬に関する特別委員会委員長「以下、特別委員長」（堀川義徳） 皆様ご苦労様です。議員定数並びに報酬特別委員会ということで、先般1回目の会議を開かせていただきました。会議の進め方といたしましては、県内の様々な状況を勘案して、ただそういった数値だけで判断するのではなくてですね、市民の皆様からのご意見をいただきながら、最終的に、特別委員会で判断していくということなんです。今のところ、次回の選挙、再来年の7月に間に合うためには、来年度中に結論を出さなきゃいけないということで、前回1回目行われた委員会の中では、令和4年度中には、何らかの方向を出していきたいという結論になっております。

司会（天野京子） 引き続きどうぞ。よろしいですか。他にいかがですか。はいどうぞ。

○市民D ○○の○○です。ごめんなさい。駅の話は私たちも切実に感じていることで、ぜひぜひと思うんですけど、私○○から来たんですね。年取ったら○○に帰ろうと、雪が多いから、ここでは住めないなって。そうですね。60歳ぐらいのとき思いました。でも今70なんですけど、こんな良い所はないと、春になったら山菜が出て、秋までとても良いんですよ。でも秋過ぎると、この雪で私たち今頑張ってますけど。この雪で追い出される。この

人口が減少して書いてますよね。私お弁当サービスもやっているんですけど、〇〇、〇〇、〇〇と回ってますけど、お年寄りの方みんな、ここに住みたいとおっしゃるんですよ。でも、この雪の中どうしようもない、それこそ70、80になったら息子のところに行くって、みんなそうやって、この雪で追い出されるんですよ。だからぜひね、新井のほうにもありますよね。市営住宅、県営住宅、三階建てですかね、あれ四階建てですかね、そういうのってこの赤倉、池の平、杉野沢どこでもいいんですよ。そういうのできないものかなと思って、今大勢の議員さんいらっしゃるんで。どういうふうを考えているかお聞きしたいなあと思っております。お願いします。

○司会（天野京子） 総務委員長。岩崎さんお願いします。

○総務委員長（岩崎芳昭） 岩崎と申します。人口減少に関してのいわゆる、入居するその建物ってことなんですけど、まず人口減少問題については、非常にこれ、どこの市町村も大きな問題、特に妙高市の場合です。市の計画よりもさらにちょっと勾配が急な形で今加工しているのが、先般、昨年の国勢調査の結果出ているところです。そのなかで、みんなが心配しているわけなんですけど、この雪というものをですね、克服しないと、ここに若いときはいいんですが、高齢になる非常に今おっしゃる通り、非常に負担になる、雪のために雪の少ないところに、またはもっと利便性のいいところっていう形が、どうしても選択せざるを得ない状況なんですけど、その住宅の関係につきましては、今、市の方ですね、雇用促進住宅というのが昔あったんですけど、今それもですね、厚生労働省ですか、そこの方がもうすでに市町村に売却したって形で、新たな整備をしないっていう中で、県の高柳の住宅も、だんだんと市の方に移譲するような形の中で、市の方では、できるだけその住宅融資制度を活用しながら、持ち家の促進とか、または改築とか、そんな感じの制度を盛んに進めているなかで、今、新しい住宅の整備ってのはちょっと私の方にも聞いてないんですけど、またそういう皆さんの声っていうものがですね、これから大事にしなきゃいけないところがありますので、また私たち議員としてはですね。研究していきたいと思っております。

○司会（天野京子） この問題について、続けていかがですか。時間も、迫って参りましたが、まだ時間ありますので、どなたかご意見等いかがでしょうか。お願いいたします。

○市民E 妙高高原の〇〇の〇〇と申します。ただいま地区の区長やっておりますが、本日は、先月30日選挙立会い人をやっているという立場で、意見を述べさせていただきます。私2014年から、前回で12回立会いしております。ますます、最初70%あったのが、60%割る勢いです。だから、それで結局心配になって一応ここに2ページ目ですか、傍聴に来ませんかかって書いてあります。だけど、行くのは私と〇〇さんだけです。今コロナで11席にされていきますけど、満席になると40何人入るんですよ。だからたまには、問題起こすんじゃないけども。満席にして欲しいですよ。そして結局今日もそうですけど、議員さん13名、参加者11名、事務員2人、これ逆じゃないんですか。本来なら、議員さん13人来ただから、その3倍の40名ぐらいいて、喧々諤々で、時間来ましたがもってなんかじゃなくて、一応今日はルールですから、全部で1時間半ぐらいがいいんですけど。その結局、投票率が低くなる。失礼ですけども、65歳以上の議員さん今18名中11名いるんですよ。年だから悪いてわけじゃないんですけど。若手が出てきてね、どんどん改革して欲しいわけですよ。ほんである議員さんに聞いたら、議員は根回しだとか、いろいろ大変だとか聞きました。それで質問はですね、何か知らんけど制約もいろいろあって、議長から止められるケース二、三見えています。何で止められたかなというのわかりませんが。ちょっと話が、もう一つですねこのアンケートにも、いついいですかってアンケートにありますけども。議会もそうですけど、日曜日とか夜とか、やって欲しいなという意見もあったと思うんです。ただ、インターネット見ればいいんじゃないか。だけど結局、インターネットに映ってないところを見たいんです私。だから結局最初言ったやつは、国会議員が居眠りしていると、年俸何千万もらって、それで頭きたから国会議員いけなから市議会で、否眠りしていないか監視しているわけですよ。だから、後ろから見ていると、こっくりしている人はちょっとね。今のところ私7年間いるけど、いなかっ

たですけどね。ということで、皆さんは市民の代表ですから、これからもですね健康に注意して頑張ってもらいたいと思いますが、だからいかにして、投票率を上げて、これ行政の問題もあるんですけど、傍聴者を増やして、関心を持ってもらうかっていうのはね。広報広聴委員長どう思いますか。以上です。

○司会（天野京子） 広報広聴委員長、宮澤さん。

○広報広聴委員長（宮澤一照） 全くおっしゃる通りだと思いますし、例えば、この市報みょうこうにしてもそうだし、まったくこの型っていうのは変わってないと思うんですね。だから何かやっぱり見やすくするとか今後またそういう予算、1年で最初に決まっちゃうらしいから、この企画通りでやるんだけどやっぱり何らかでこう変えていかなかったら、やっぱり例えばこれ、昨日の防災無線でも放送してるし、また議会報にも出てるし、いろんな形で来て欲しいって言うんだけどやっぱり、来てもらえない。だけど、何とかですね、興味を持っていただきたい。特に議会になったら、やっぱり来て欲しいという気持ちはすごくあるんですけども、私も、例えば女将の会に来て欲しいって、行くよって言ったんだけど、何日にやるかっての私が忘れちゃったりとか、そういうこともやったりとか、やっぱり本当に気をつけながら、これからいかに、みんな議員一人一人がどのようにして、議会に興味を持ってもらうか、行政にも興味を持ってもらうかっていうことをやっぱり努力していく必要があると思います。特に私たちはこの議会報に関して私は今、広報広聴委員会として、やっぱり力を入れたいってことがあって、例えば東京とかでも世田谷にしても、なんか千代田区にしてもそうだけど、今のこの議会報もやっぱりお年寄りなんかはすごい見づらいんですよ。見づらい部分もあったりだとかそれをもうちょっと大きくしてみるだとか、そういう形のもの、あとはどのようにして、先進事例としてやっているかっていうことをもっと我々広報広聴委員会で、研究していく、特に今回は4人の女性議員が、この委員会に入っておりますんで、このあと2年間ありますから、その間にですね、いかにこの議会の方に興味を持っていただくかっていうことをですね真剣になって取り組んでいくんでその辺を期待していただきたいっていうわけでもないんだけど、一生懸命やっていきたいと思います。ただ、その議会の方の傍聴っていうことに対してはもう本当に我々も今後ですね、頑張ってやっていかなきゃいけない。やっぱりその一環として、今回、議会をもっと知っていただきたいということで、議場でですね、合唱コンサートをやってみたい、来年はこども議会をやってみよう。もう常にそうやって動いて動いて動いて、それで興味を持ってもらうようにやっていきたいと思ったり、そのためには皆さん方から言われたことをいかに議会に知らせるかかっていうことがやっぱり知恵を絞っていくことも、やっぱりそうすると皆さんがたは、議会がやってくれるんだから興味を持って、私たちちょっと行って聞いてみようっていうことになってくるんだと思うし、何もやらなければあんなとこにいったってしょうがないってことになるんだし、その辺をしっかりとわきまえて、これからやっていきたいと思ったり。今日は人数が少なかったけどすごく私は、濃い意見があってこれを本当に責任を持ってやれる場だったというふうに思います。だからその辺を含めてやっていきたいというふうに私は考えておりますので、よろしく願いいたします。

○司会（天野京子） 貴重なご意見でございまして、引き続き同じようなご意見の方おられましたら、この件につきまして。

○市民E もう一つよろしいですか。一応最後に一言だけ。私も〇〇さんももう高齢者です。65歳以上です。私も元氣なうちは行けますし。車を運転して行けますけども、車運転してでもいけないということはもう皆さんにはもう諦めを感じたということなんで、それだけ思ってください。この会も来ません。何言ってももう聞いてくれないんだ。聴きっぱなしで帰ってこないから。結局、子どもにいくら怒っても、効かないんだったらもう諦めて放っておこうと、それと同じだと。そういうふうに思ってください。一応もう私が、議会に行かなくなったら皆さん好きにやってください。もう私もあと10年であの世に行っちゃいますから。以上です。

○市民A 前日も私、〇〇さんと同じような意見で言ったらば、佐藤議長がちょっとニヤッと笑っただけけれども、意見聞いて、INGがついていないんじゃないですかという発言しました。だからそれと〇〇さんが言ってるのと、私は一緒だと思います。だから、なぜこういうことできるか、発言できるかっていうと、本会議から委員会までみんな言ってるわけですね。その中で、だから1人と質問しているわけでもないし、こういう方向があるけれどということは何も発言していないから、今の〇〇さんのような発言になるんですね。だから私たちも、私も、何も、経験っていうか情報を得ずにやっているわけではないんです。この2人は、出席率90何%ぐらいいてるんですから。別にそこを自慢するわけでもないけれど、そういう人たちの意見を生かしてもらいたいと。ですから前回やったときにもINGがついていないんじゃないですかと言ったのが同じ意見です。以上です。

○司会（天野京子） 議長から発言を求めたいと思います。

○議長（佐藤栄一） 貴重なご意見ありがとうございます。本当に毎回、議会があるたびに、お2人からは来ていただいて、ありがたいというふうに思ってます。昔は、12月の議会には法律を学ぶ会というのがあって、議場の傍聴席はもう満席というのが12月、毎年あったんですが、その会も今無くなったということで、非常に議場傍聴席の方は空いてしまっているというのが現実でございます。その分、議会の方としては議会改革として、YouTubeに流す、それからケーブルビジョンに流すということで、そういった形で対応させてもらってますが、なかなか足を運んでもらえないのが現実です。それも2人が一番見てらっしゃると思うんです。我々議会としてもそれがいいというふうには全然思っておりません。私もこの8月から議長になりまして、開かれた議会、寄り添う機会ということで、何とか改革していこうということで、この前、議場でコンサートという形で、今まで議場見たことない方々に議場に入っていただくという機会を作らしていただきまして、少しでも議場を知っていただきたいという思いでございます。これからも、今宮澤副議長が申し上げた通り、これからの仕掛けでまだ決まってはいませんが、こども議会を仕掛けるとか、また新しい形で市民の皆さんが議場で何かできる工夫はないか。そういったものを考えながらやっていきたいと思っておりますし、それらを通じながら少しでも開かれた議会、市民に寄り添う形の議会を作りたいなという思いを持っておりますので、しばらく見ていただきたいというふうに思います。よろしく願います。

○司会（天野京子） ありがとうございました。今まで出ていない。話題でございまして、教育ですね。あと、地域医療、福祉など、こういった点で何かご意見等ありますでしょうか。願います。

○市民F 座ったままでよろしいでしょうか。〇〇の〇〇と申します。よろしく願います。地域医療とまではいかないかもしれないんですけど、妙高市で毎年1回健康診断をさしていただいております。とても助かっております。その中で、私もここ二、三年、うんと年を取りまして、本当に後期高齢者になりました。皆さんも、何人か後期高齢者の方が多いかと思えます。その中で、胃の検診をするときに、右見て、左見て、くるりと回って、また右を見て、後ろにひっくり返るような感じで、とてもなんていうか体にもものすごく負担がかかるんですね。今年はどういいうわけかちょっと肩の異常もありまして、とてもうなんていうか健康診断、胃の検診を受けるのに苦痛になりまして、それでいろいろな方にあれしたら、やっぱり足が利かないとか、手足が利かない、持っているのもちょっと持てないっていうような人も見受けられて、ぜひ寝たままでもくると写してくれるような、そういうものがないものか。そしたらどなたかが、それはあるよ。病院にあるよって言われました。何とかそういうものをやっていただけたらありがたいなと思っております。私ももうダイヤモンド75カラットでございます。それでもまだね、まだまだ、あと15年生きようと思っております。ですから、ぜひそういうものを取り入れていただけたらありがたいなと思っております。よろしく願います。

○司会（天野京子） まず、担当委員長、厚生文教委員長の村越さんお願いいたします。

○厚生文教委員長（村越洋一） どうもありがとうございます。厚生の担当になりましたので、お相手させていただきたい。ただいまですね、胃がん検診の件なんですけども、医療行為に関しては、私も素人でございますので、どういった医療機器によって、やれるかどうか、そこまではなかなか申し上げられないんですが、私も経験からするとですね、結構大変であります。ひっくり返るときには、手でしっかり押さえずなくちゃいけないとか、ただだんだんやるうちに要領が慣れてきて次こうだとか、そういうような形でやってるのは確かでございますが、本当に大変なご苦労があると思います。私でもかなり大変なので、ご高齢になったり、それぞれの疾患のある方になれば、なおさら大変だろうなと思っています。今のご意見ですね、そういった病院の方の体制であるんだとお伺いしましたので、私なりに研究してみたいというふうに思いますけれども。たまたまですね、議会の中で、専門家をちょっとおりますので、そこのところちょっとお話を聞いてもらってよろしいかなと思うんですが、私ではなかなかお答えできないですから、申し訳ございません。

○司会（天野京子） それでは元けいなん病院の看護師長をしておりました。太田議員から発言を求めたい。

○広報広聴委員（太田紀己代） ごめんください。改めまして、太田でございます。今ほどの健康診断の件につきましては、やはり行政とか国とか県とか健保組合といった形のところがございまして。そこで費用を捻出するところで、胃の検診は胃の透視になっているんですね。寝たままでゆったりできるのが、胃カメラになるんですね。そこに対しては、補助といいますか、そういったところがなかなかまだ認められてなくて、二次検診といった胃検診、胃の通しの検査で引っかかった方が、その二次検診で胃カメラを受けると言ったのが、今のその動きなんですね。ただ、ただし、今ご意見いただきましたが、この妙高市の中で国民健康保険を受けておられて、その検診を受けられる方々に対し、胃カメラを通常の中で検診に組み込んでいただくといった要望を入れていくと。そういう考え方はあるかと思えます。なかなか本当に胃の透視は、右見て左見てにくると回ってまた今度は左へ行っ、次は頭が下がりますというような形で映しやすいように、バリウムを胃液に、胃の壁にくっつけるようにするために、ああやって動いていただくんですね。なので、本当に足腰の悪い方々にとっては、苦痛な検査になっているとは思いません。そういった意味で今、大変貴重なご意見いただきましたので、改めまして、しっかりといろんな形で要望を持っていければというふうに思います。失礼いたします。

○司会（天野京子） 引き続き、地域医療、福祉などの件につきまして、何かご意見等ございましたらお聞きいたしますがいかがでしょうか。お願いいたします。

○市民G 妙高高原の〇〇の〇〇と申します。地域医療の関係につきましてお願いをしたいんですが。県立妙高病院がございまして。岸本院長先生をはじめ、スタッフの皆さん方が非常に頑張ってくださいましてですね。地域の皆さんがたの立場に立って診療していただいております。病院の見直してということですね。大変大きな課題が現在あるわけですが、非常に妙高高原地域の皆さんがたを初め、一部は妙高高原以外からも来ていただいております。また、現在はコロナの関係で、子どもたちの修学旅行、特にスキークの修学旅行ってのが最近少なくなってございますが、地元で地域医療があるかないかっていうのがですね。学校の子もたちが来る場所を選定する条件の一つにもなっております。そういう面で、地域の皆さん方にとっても、また観光にとりましてですね、非常に大事な病院になっております。妙高病院後援会という組織がございましてですね。特に冬期間のスキーのお客様が骨折等した場合においては、ぜひその整形外科の先生を妙高病院に来ていただくというような活動もしております。非常に妙高病院と県立中央病院と連携をいたしまして、内科の他にですね。外科とか、或いは小児科だとか眼科とかですね、いろんな科目の中央病院の先生が来ていただいて、見ていただいております。非常に工夫されてるわけでございます。ぜひ市の方も、活動されているわけですが。議会としてもですね、直接県知事をはじめ、県の病院局長等にも陳情等を要望していただいて、妙高病院をぜひ守っていただきたいということをお願いをしたいと思っております。

もう1点その他の方に入るかもしれませんが、地域の高齢化が、年々進んでおりまして、地域の老人クラブや、或いは自治会等の役員の皆さんがたの高齢化になってきております。そんな中で、市の中でいろんな補助事業がございます。ですが、考えている皆さんがたつのは、市の職員。若手の皆さん方が考えて、いろいろ企画されるわけでございますが、それを利用する地域の自治会や老人クラブの役員の皆さん方というのは、高齢化になってきておりますから。その手続きがですね、非常に難しいと言いますか、若い人たちから見れば簡単なんでしょうけども、お年寄りから見ますとなかなか手続きが難しい。税金を使わしていただくわけでございますので、厳格にしなければいけないという面は承知してるところでございますが。もう少し簡略化した例えば、私区長やっていた時にですね。自主防災組織の備品を整備するために、市の補助金をもらおうと、そん中の最初ですね、補助金申請の中で、地域の将来像なんですかっていうことを書く欄があったんですね。これは確かに将来像必要かもしれないんですけども、地域の役員の皆さんがたにその地域の将来像を記入させるなんてのはですね。少し荷が重たいという面がありますし、またいろんな地域の活性化の事業の補助金になりますと、プレゼンテーションもやらなくちゃいけない。それから途中で中間報告しなきゃいけない。成果報告しなきゃいけない。また、その他の事業の中でも、着手前の写真。実際にやってるところの写真。できた写真ということですね。そういう部分も含めてですね。できれば、市内の妙高市民でございますので、信頼をしていただいて、簡素化をしていただければなと思っております。ぜひそんな中で、市の議会の方でもですね、取り上げていただいて、地域の皆さん方が、積極的にそういう補助金を活用できるようにするには、ある程度簡略化していただかないと、市の方で補助金使ってくださいと言っても、結果的には予算が残る状況っていうのもあるように聞いておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○司会（天野京子） それでは初めの方ですね、県立妙高病院の存続の件につきましては、厚生文教委員長の村越さんお願ひいたします。

○厚生文教委員長（村越洋一） 地域の医療の関係についてですけども、先ほどもお話にあったようにですね、地元の後援会のほうから要望があったり、そういったことに関しては、非常に理解しておりますし、状況を把握しているつもりでございます。いかんせん、地域医療に関してはですね、新潟県、そして上越地域での動きというか、その中で大きな流れの中の一つの機能というふうなこともございますので、そういった中でですね、一般もですね上越地域医療構想会議、こういった形の中で会議が行われて、各医療関係者それから妙高市、自治体の方からですね含めて、いろんな意見交換をしながらですね、今後の医療体制について、今審議をして、いろいろ取り組んでいるという状況だと理解しております。我々の議会に関してもですね、そういった状況を把握しながら行政と一緒にですね、要望活動、是非ともしていきたいというふうに思っております。よろしくお願ひいたします。

○司会（天野京子） 続きまして、先ほどの補助金の活用に関する手続きの簡略化、防災備品の件ご紹介ありましたので、この件は総務委員長の岩崎からお話をいたします。

○総務委員長（岩崎芳昭） 補助金の関係、それに加えてですね、消防組織の防災の関係もありますが、一番多く使われているのが地域の元気づくり事業、これがあるんです。その中で、今ご提案ありましたが、私たちが実際問題今まで使った中でやっぱり面倒くさいなど。だから若い人がそこで作るのであれば簡単なというなかでですね、私どもも担当の方にですね、もっと簡略化してくれと、またそれから途中での中間報告というのものも、できるだけ簡単な資料だけにしてもらって、最終的なその実績報告は書類だけにしてくれとか、そんな話の中で、かなり進んでいる部分もあります。ただ、やっぱりどうしても品物買ったとか、それから作業したとかっていう場合は、その着手前んと作業中と、それから終わった後ですかね、購入した後、それがないと現物を担当者が直接見に行けばいいんですけども、そればっかとはいかないってことになるとどうしても写真というものは必須かなと、そのような中でできるだけですね、役所の方に足を運ぶ回数を少なくするような工夫っていうのは、これからは必要かなというこ

とでありますし、またそれを補助金を使って、多くの地域の皆さんが、またいろんな形でですね地域の活性化に役立てていただけるように、私どももまたいろいろなかたちで行政と調整していきたいと考えます。

○司会（天野京子） 引き続きこの件につきまして、ご意見ございますか。よろしいですか。その他の方はいかがですか。どうぞ。

○市民E 先ほどですね、議員定数等の委員会開かれているんですが、これは市民の声を聞くんですか。

○司会（天野京子） 委員長より発言をいたしたいと思います。

○特別委員長（堀川義徳） 委員長ということで、お答えさせていただきます。まだ確定ではないんですが、第1回目の会議の時には、何らかの形で市民の意見を聞きたいということで、このような形の意見交換会の中で聞くんですね、行った地域ですとか業界ですとかそういった方々からしか聞けないということで、今考えてるのは、毎月市報入っていますよね。市報ですね、その中に1枚ですね、議会の定数とかその辺に関してのアンケートといいますか調査をしてですね、それで無料で送っていただけるような形をとって、全市民から今こういったことを議論しますので、お考えをお聞かせくださいというような形で、それをアンケートを取って、それを参考にしながらということで、そういった形で意見集約はさせていただくつもりです。

○司会（天野京子） この件につきまして続けていかがでしょうか。

○市民E 何回も言うんですけど、市民の声がですね、多いにもかかわらず、よく言うんですけど、賛成が多くても、何か作るときに、建物、箱物作るときに市民が反対してても、結局、これは行政じゃないんですけど、行政は、作っちゃうとありますよね。それだけは避けてくださいということです。

○司会（天野京子） わかりました。ありがとうございます。その他、今まで議題に上がってないことでも結構ですどうぞ。

○市民B たびたび申し訳ございません。先日、今の建物もそうなんですけど、大変なお金をかけて図書館を作るという話を伺って、私たちすごくびっくりしたんですけども、それは議員さん全員の賛成で、図書館お作りになられるのでしょうか。その必要性っていうのは私たちちょっとわからないのと、その〇〇さんがおっしゃられる医療のこととか、もうちょっと違うところに、正直かけるべきものがたくさんあるような気がして、〇〇さんのお話を伺うとやっぱり、住むところには、一番最初に医療、それから交通機関、図書館が今更いるのかなっていうのが正直、私、その話伺ったときにびっくりしたんですけども、その箱物を幾らかかるでしたっけ、その図書館作るのに。そのお金、皆さん、それ賛成なさった方にちょっと伺いたいです。

○司会（天野京子） 厚生文教委員長、村越さん。

○厚生文教委員長（村越洋一） 図書館の建設に対して、賛成したかどうかということなんですけれども。議会の中でですね、図書館を建設するという説明を受けて、それに対して幾つものステップがあるんですよ。その中で、例えば一番最初の場所はどのようなふうになるということを…。

○市民B 作るということがまず前提だったんですか。

○厚生文教委員長（村越洋一） 図書館に関してはですね、まず老朽化している。それから今現在の場所は非常に狭いというような状況もあって、それで新たに建設しようというような形にはなったというのは事実です。その前の段階で、図書館の構想というのがございまして、それを審議する中で、図書館っていうのは必要だなというふうな形の流れの中で今進んでいる。今、場所の関係に関してはですね、立地適正化計画というそういった中の地域の中心市街地の中の1施設として、中心市街地に整備しようというふうな流れになっております。その流れの中では、議会としては賛成して動いているということですのでございます。

○市民B 場所ではなくて、必要性というところでの皆さんの認識というちょっと今わかんない。

- 厚生文教委員長（村越洋一） 必要性に関してはですね、いろんな計画が出てくるなかで、それは果たして必要なのかということ、業務行政に聞いてですね。それでいろんな質疑の中で進んでいるというところ。ですからその中で、議員全員がですね、そのまま可決しているということになりますので、その中では、必要性というのは認められるというふうな形になっています。
- 市民B それは議員さんたちが、必要性があるというときに議員さんたちを支持している皆さんのきっちりした意見をしっかり聞いて、我々の声を代表としていらっしゃる議員さんたちそれぞれで、その声を吸い上げて賛成して、この話ができたという認識でよろしいでしょうか。
- 厚生文教委員長（村越洋一） まずはですね、議員が賛成する反対する部分と、それから市が、要するに、施設整備する市として市民の皆さんがたの意見を聞くという場面も、今までのステップとしてはありました。例えば、計画を作るにパブリックコメントという形で、市民の皆さん方からの意見をいただくというふうな流れの中で、今に至ったというふうな形になっております。
- 市民B 本当に必要という話になったんですかね、なんかどうも理解できないんですけど、もちろん図書館というのがあるべきだと、あったらいいと思うんですけども。老朽化している、稼働率というのはどの程度のものなんですか。かなりの大勢の方がご利用なさっていらっしゃるって、老朽化して、それを新しくして一体どのぐらいの人が利用するっていうそういう試算を出して、必要だという認識で、議員の方が動かれるたでしょうか。
- 厚生文教委員長（村越洋一） いろんな必要性の中で最終的な判断になっていくと思うんですね。その中で、利用されている方は当然市民の皆さん全員ではないというふうに思っております。ただ、これからの教育の中で、やはり図書館っていうのは、必要な部分であろうというふうに私も思っておりますし、ただその作られ方であるとか、どういった形ででき上がってから新皆さん方が利用してもらえるかということに関してはですね、私も非常にシビアに、議会の場でもですね、追及させていただいたりしております。それも今現在は進行中といいますか、実施設計に至る前の状況でありまして、市民の皆さんがたに説明をしてくださいというふうな話はしております。私も課題、問題だなと思っているのはそういった声というか、市の動きがなかなか伝わっていかないところが、非常に皆さんがたに感じられているようなことと、同じような感じでありますので、今後もですね、そういった市民への説明ってのは非常にきっちりとしていただくようにというふうな要望は出していきたいと思っております。
- 市民B 私も子どもを育てた中で本当に図書館の必要性っていうのは、うちの子たちやっぱり〇〇市内にある高校に通っていて図書館の近くにある学校だったんですけど、実際その図書館に行くのは、親の迎えを待つとか、そういう必要性だけで、図書館としての利用っていう必要性というのが私は親として見えなかったですね。ですからその今後その本当に図書館を作るのであれば、ちゃんとその利用するであろう人たちの意見を聞いて、場所とか規模とか、じゃあ一体今おいくらでしたっけ。図書館の建設費用の概要ってほしい、なんかすごいお金ですよ。それをちゃんと提示してこれだけのお金を使ってここにこれだけのものを作りたいと思うんだけど、本当にそれ必要っていうのを、本当に利用する方々の声を利用して欲しい人たちの声を聞いていただきたいと思います。以上です。よろしく願いいたします。
- 司会（天野京子） 今回の建設に関わりましては、議員全員、いろんな意見を出させていただいております。その中で、複合施設であるということが非常に大きなポイントとして、私たちに押し掛かりました。今まで見たことがないからです。その点につきましては、議長から経緯をお話をいたします。
- 議長（佐藤栄一） さかのぼると、今の図書館っていうのが、昔コミュニティセンターの一角にあるんですが、当初はその図書室として設置されたものでして。県内市の中で、図書館という条例を持ってないのは、新井市だけだと。要するにまたその中で、市としてちゃんとした図書館が必要ではないかってことで、あの場所にそのまま図書館を

室から館に直したというのが流れです。非常にあそこが当初広いと思ったんですが狭いんですね。今蔵書が9万冊程しかないということで、もう展示してるのと、後ろにしまっている場所がもういっぱいになってしまうということと、利用する方々の通路がすれ違いきれないほどの諸般がいっぱいになってしまったという状況もございます。そんな中で、これから皆さんがた市民の皆さんがたの知識を上げるためにも必要ではないか、あわせて、複合施設という形で、子育て、それから市民の皆さんの相談の場所とか、そういったものを一体的に場所を真ん中に作ったらどうかという、あり方検討会の中の流れを受けて、2ヶ所の場所が選定されて、最終的に街の真ん中でどうだということでご決まったところです。図書館というのは非常にいろんな面で活用の仕方があります。今高校生の方、待ち時間というお話ありましたが、今の妙高市の図書館でも結構学生さんが来て、あそこで勉強されてます。そういったのを見てもっといい環境にしてかなきゃいけないかなというような思いでございます。今回基本設計で提示されたのは三階建てで、三階の一番上の図書館機能という形で、下に行くに従って子育てとか、そういった形のつくりになって、示されたところでございます。議会の方でも、厚生文教委員会、それを見させていただきまして、かなりいろいろと質疑をさせていただきました。もっともっと図書館の活用の仕方があるんじゃないかということもありまして、議会でもこれからしっかりと見極めながら進めていきたいというふうに思っています。経費の方は一応22億ということでございます。ただ、これは税金はあまり、あまりといっても、多くのお金を使いますが、合併特例債を活用していくということになりますと、7割が国のお金ということになります。合わせてあの辺周辺の整備を全部一緒に、それに向かっていけるってことで、その面では市民の税金はかなり少なめといっても多くですけどね。わかりますが、市民の知恵の中核という形でこれから整備を進めるという考えでございます。

○司会（天野京子） どうぞ引き続きご質問ありましたら続けて。

○市民H 質問というか私も本、すごく好きで、読んで本必要性とか、あり方とか非常にわかります。本当に自分の子どもたちにも本を読んでほしいんですけども、実際今の形、今ワーケーションもそうですけどデジタル化がどんどん進んでいて、これからの子どもたち、本当に必要なのは、かさばる本ではなくって、アマゾンやキンドルなのではないかなというのが正直な思いです。そういうことも含めてどうぞお考えいただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○司会（天野京子） 委員長から発言を求められておりますので、村越さんお願いします。

○厚生文教委員長（村越洋一） すいませんちょっと時間もあれなので端的に、アマゾン、キンドル、もちろん私も利用しておりますけれども、やはり地域に必要な図書館、やっぱ地域の資料ってのは非常に大事だと思うんですね、地域にしかない。そういったものがまた、その地域を育てたり、地域を好きになる子どもたちを育てていくんじゃないかというふうなこともありますんで、そういった地域に関する資料作る歴史資料そういったものも、収集するというふうなことを聞いておりますので、そういったところも期待してですね、いきたいなと思っております。

○司会（天野京子） その他ございますでしょうか。最後の質問をお受けしたいと思いますが、はいどうぞ。

○市民I 大変遅れてきて申し訳ありませんでした。〇〇の〇〇です。クロスカントリースキーをやっていた〇〇といえば、おわかりになっていただけるかなというふうに思うんですけども。私の場合、意見というよりもですね、お願いといいますか、希望なんですけれども。今、小中学生、高校生もそうなんですけど、スキーをやる子どもたちがとても少ないです。で、私ちょっと調べたところ、妙高市の中学生で今スキーをやっている子ども、2年生3年生が、3種目、クロスカントリー、アルペン、ジャンプ合わせて17名。中学一年生においては、たった5名しかおりません。これ妙高高原ではなくて妙高市内、新井中学、妙高中学校、妙高高原中学校を含めて全てです。3種目で、1年生から3年生22名。というのは、私が中学生のときは、妙高高原、妙高中学のその区域だけでも22名以上いたと思うんですね。非常に少ない人数なので、私ちょっと県のスキー連盟の方でもちょっと職をいただきまし

て、動いているんですけども。ぜひ、妙高では、妙高はやはり、私はスキーの妙高だと思ってるんで、スキー王国新潟ってイコールスキー王国妙高だと思っているので、その妙高でこれだけの少ないスキー選手、スキー競技人口ですか、というのちょっとやはりショックを受ける部分でもあるので、ぜひ少しでも、これから少しでもスキーに力を入れていただきたいなっていうところをお願いしたいと思います。もう1点としては、やはりスキーを競技をするにあたってやはり大会っていうものを目指している選手が多いわけですけども。妙高市でスキーの大会をぜひ誘致というまではいきませんが、スキーの大会を開催するっていうところに、少しでもお力添えをいただきたいというのが希望ですので、どうぞよろしくお願いいたします。すいません。あともう1点だけ。さっきもしかしたら最初のところで教育というところで出たのかもしれないかもしれませんが、今妙高高原の南小学校北小学校の統合というお話が出ているんですが、今こちらにいらっしゃる〇〇さんも携わって、統合検討協議会というものができて、意見ということで妙高市教育委員会の方も、文書として出ているかと思うんですけども、私個人的にですが、保護者として令和8年までに、妙高高原南小学校、北小学校は統合するような形で議会で報告があったかと思うんですけども。それが今、令和5年の4月というふうになっていますが、子どもたちのためには、私がもう少し、歩みを、歩を緩めていただいて、令和8年までということで、やっていただきたいなと思っています。というのもやはり子どもたちも統合に関しては不満も感じておる子もたくさんおりますので、1保護者としては、少し歩を緩めていただきたい。検討協議会からは、令和5年というふうに出ているとは思いますが、やはりいろんな考えなければいけないねってたくさんあるかと思っておりますので、急ぎ足では子どもたちのためにはならない。急ぎ足で行ってしまうのは子どもたちのためにはならないので、是非とも妙高市の子どものために、もう少し時間をいただいて、よく検討していただいて、統合というところに進んでいっていただきたいなというふうに思っていますので、私の場合は、意見といいますか、本当に希望というお願いでしかないんですけども、どうぞよろしくお願いいたします。

○司会（天野京子） ありがとうございます。スキー人口の件、また、統合の件ですね。厚生文教委員長の村越さん、お願いいたします。

○厚生文教委員長（村越洋一） ありがとうございます。今ほどのですね、ウィンタースポーツ、スキーのこれからの推進というか、そういった教育の部分で深めていこうという話なんですけれども。市としてはスキーのまち妙高を推進ということで、形としては進んでおります。ただ、現実的にそういった子どもたちが少ないというような実態、それについては今ご意見いただいた中でしっかり承知したつもりでおりますので、そういったことについてですね、今後、やはりこれまでの歴史というものがありますので、妙高市の中でですね、ウィンタースポーツとして、スキーというものをしっかりと、推進していけるような形ということ、私の方もしっかり受けとめていきたいと思っております。それから先ほどのですね、北小とそれから南小の件ですけども、これについてはですね、非常に地域の中の考え方というのが非常に大事であります。妙高市としてもですね、先ほど令和8年というふうにお話されたのは、小中学校の整備構想っていうものができまして、その中で、今後の進め方というか、形のもの示されたということなんです。一番はすごく人口が減って行って、これから学校をどういうふうにして運営していくかということが発端だというふうに思います。ただ思いとしてはですね、やはり子どもたちのため、これは同じく変わりませんので、その中でですね、どんなふうな歩み方を進めるかということに関しては、やはり地域の皆さん方ですね、合意を尊重しながら、議会としても慎重に進めていくべきことだというふうに思っております。その中で教育委員会との連携というか、この地域そして子どもを第1に考えるということですね、ベースにおいて、しっかり進めていきたいというふうに思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

○司会（天野京子） 〇〇さん、よろしいですか。ありがとうございました。私もノルディックスキースクールをお父

さんがされていたと思いますが、生徒でした。お世話になりました。お時間も来ましたので、よろしいでしょうか皆さん。ここへ来るときに、これだけは言おうと思っていたことを残されてる方がおられましたら、ぜひいただきたいと思いますが。はい。ありがとうございます。

4)、5) 閉会あいさつ、閉会

○司会（天野京子） 本日は活発に意見交換をさせていただきましたが、予定をしておりました時間も経過しておりますので、本日の議会報告会、意見交換会は、ここで閉じさせていただきたいと思います。本日は忌憚のないご意見を多数いただき、ありがとうございました。以上をもちまして、議会報告会意見交換会を閉会いたします。なお、お手数ですが、アンケートへのご協力をお願いいたします。記入が終わりましたら、用紙はそのまま机に置いてお帰りいただいて結構です。本日は大変にありがとうございました。お帰りの際は、事故等に十分注意してお帰りいただきますよう、よろしくお願いをいたします。本日は大変ありがとうございました。

閉会 午後3時10分